伊豆沼・内沼

サンクチュアリセンターニュース

Sanctuary Center News

１１月８日、２１日にガンの飛び立ち観察＆ラムサール湿地見学ツアーを開催しました。伊豆沼で約２万羽のマガンの飛び立ちを観察した後、蕪栗沼・化女沼でオオヒシクイやマガモなど多くの水鳥を観察しました。

Vol.126
令和2年度12月号

子どもたちと一緒に目指すエコトーンの復元

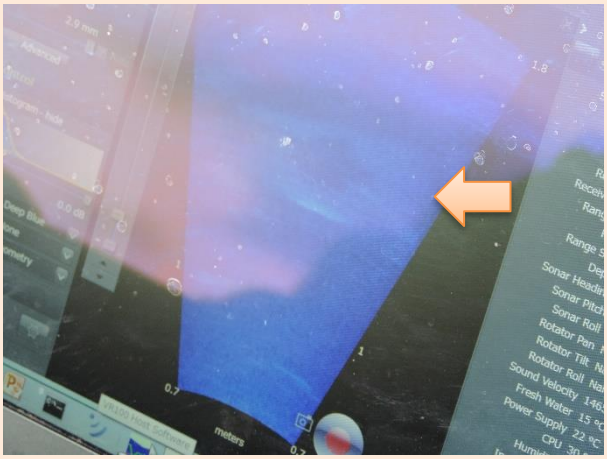
財団では、これまでのマコモ群落などの植生復元研究を踏まえ、浸食を受けた沼の湖岸を補修しながら復元する手法に着手しています。

今回、新田小学校５年生の子ども達に水性植物を植える作業を手伝って貰いました。この子たちが大きくなる頃に広く復元した植物群落を残せればと思います。また、先月には自然再生協議会の専門家が視察に訪れ、感想や意見を頂きました。

東大・水野先生によるカラスガイの音波探査

底泥にあるカラスガイは目視で観察することはできず、生息状況調査は足で探るなど非常に困難で非効率な手法で調査しています。今回、音波探査を専門とする東大の水野先生のご協力により音波探査機器を用いたカラスガイ調査が行われました。調査では、音波でしっかりとカラスガイを捉えることができるなど、今後のモニタリングなどの活用が期待されます。

音波を照射する装置。価格は1千万円ほど・・・



画像に写ったカラスガイ。（矢印が示す白色部）

泥の中から、このようなカラスガイを音波で捕まえます。

BBCによるガンの撮影

何度も撮影に来て頂き、ありがとうございます。

夏のハスの撮影に続いて11月上旬に英国放送協会テレビ（BBC）によるガンの撮影が行われました。これは「Japan’s northern wildness シリーズ２」という、日本の東北地方の美しい自然や動物、文化などを紹介するドキュメンタリー番組の撮影です。これまで同じ撮影地に年２回取材にくることはなかったそうで、世界に誇る伊豆沼・内沼の自然のすばらしさをあらためて実感しました。

県ガンカモ研修会／理科教員研修会

宮城県では年3回ガンカモ類の生息調査を行っています。10月22日に調査を担当する自然保護員や県職員を対象としたガンカモ類調査研修会が行われました。

また、高校の理科実習を担当されている先生方が、伊豆沼・内沼の生き物の生態について学び、植物園で保全活動を体験する研修会を行いました。先月に引き続き、様々な方々が研修に訪れており、伊豆沼・内沼の環境学習活動の重要性の高まりを感じています。

宮城県ガンカモ類調査研修会の様子

平筒沼での環境学習会

11月18日に、地元の小学生を対象とした環境学習会が、平筒沼において行われました。当財団から職員２名が講師として参加し、この地域の沼で行われている生き物の保全や水草の説明のほか、沼に住む魚の観察会を行いました。

平筒沼は既に冬の装いで、オナガガモやマガモが多くとても賑やかでした。また、沼の岸にはマコモやヨシといった抽水植物、漂着したマツモなどがあり、沼の水草の豊かさを物語っています。このように一見良好な環境を維持しているように見える平筒沼ですが、ハスや外国原産のスイレンといった外来種の繁殖が確認されています。

伊豆沼・内沼生き物図鑑（ミチノクナシ *Pyrus ussuriensis var. aromatica*）

ミチノクナシは、日本に自生する野生の梨で、東北地方の北部にのみ自生する珍しい植物です。食用に栽培されるニホンナシに姿形は似ていますが、果実は直径3～4cmほどと小さい、果柄が長い、萼が果実に残る等の違いがあります。また果実はよい香りを放ち初夏に咲く花も美しく、人目を惹きます。

ミチノクナシは現在、絶滅が危惧されています。そんなミチノクナシですが、伊豆沼流域でよく似たものを見つけました。伊豆沼流域はミチノクナシの分布域の南端付近なので、当地の野生梨はミチノクナシの血を引く可能性が考えられます。これらの野生梨には個性があり、洋ナシ似でリンゴの香りがするもの（写真下左側）、洋梨の香りとシャリ感、強い甘みを持つもの（写真下右側）が確認されています。

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者　（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
Tel0228-33-2216　Fax0228-33-2217
ホームページ:http://izunuma.org/
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp